

## 2020 年度前期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

ー共通教育研究センターー

センター長 有田 英也

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウェルネス科目、IT 科目、初年次向けリテラシー科目である WRD 科目、データサイエンス科目から構成されています。前期開講科目のうちアンケート実施対象科目は 97 科目あり、延べ 8,887 人が受講しています。このうち 96 科目でアンケートが実施され、延べ 2,053 人の回答を得ました。この場を借りて、協力いただいた受講生の皆さんに感謝します。実施率は 99.0%と高い数字です。授業改善のため、これからも多くの先生方にご協力をお願いします。ところが、アンケート回答率は全体で 23.1%であり、昨年度前期の 59.5%、後期の 47.9%と比べてさえ、低い水準にとどまっています。これは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、すべての授業がオンラインになり、アンケートもオンラインで回答・回収されたことによります。ちなみに大学全体の回収率は 22.4%でした。不回答率がそのまま欠席率ではないとしても、受講生の授業参加度を高めるための工夫が必要でしょう。

個々の科目の集計結果は Campus Square から自由に閲覧できます。ここでは全体を総覧します。まず、授業の満足度の指標となる、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」の平均は、5段階評価で 3.95 と昨年度後期の 4.13 に対して後退しました。これは大学全体の 3.98 とほぼ等しい結果です。突然のオンライン授業という難事に大学全体が直面したわけですが、とりわけ全学共通教育科目は初年次の履修者が多かったためにこのような結果になったと推測します。

13 個の設問のうちオンライン授業に関わるものから見てゆきましょう。「円滑に授業を受けることができた」は 4.06 と、高得点を意味する 4.0 以上ですが、「教員との双方向のやりとり(質問への回答や課題の返却等)が十分にあった」は 3.58、「教員の授業資料は見やすかった」は 3.92 と改善の余地があります。「教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた」の 3.96 は、大学全体の 4.03 にほぼ匹敵します。今後の感染状況によっては、また国と社会のデジタル化の趨勢によっては、日本の多くの大学、特に文系学部で対面(面接)とオンラインの併用があるかもしれません。残念なことに、4.0 以上の評価は全 13 項目のうち 3 項目にとどまり、2019 年度後期の 8 項目、前期の 7 項目に及びません。引き続き授業改善の努力を続けてゆきたいと思います。

個別項目と「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関係数、つまり評価 1 から 5 までの回答数の分布が似ているかどうかを確かめると、0.82 という高い

相関を示しているのが「この分野への興味・関心が引き起こされた」という設問です。全学共通教育の目的は、学部の垣根を越えた幅広い教養を身につけること、よりよく生きるための課題に気づくことにあります。困難な環境のもとで意欲ある学生の皆さんから高評価を得たことを喜ぶとともに、授業の充実に努めてこられた教員の皆さんに重ねて謝意を表します。

解決すべき課題もあります。本学の奨励するアクティブラーニングと関わる設問は、従来「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」ですが、全面オンライン授業によって、質問項目が「教員との双方向のやりとり(質問への回答や課題の返却等)が十分にあった」に変わり、その結果は前述のように3.58でした。これを従来の質問による結果と比べると、2019年度後期で3.69、前期で3.56にとどまっていた数値が、やはり低迷気味です。科目によっては大人数の講義という不利な条件もあるでしょうが、今後も教員の皆さんの促しと工夫を期待します。

スポーツ・ウェルネス実技科目は、たいへん残念ですが「トレーニング」1科目の遠隔開講を除いてすべて休講とさせていただきました。受講生は自宅にとどまり「十分に運動すること」が難しい状況にありますが、自身の「身体の健康、体力、生活習慣を見直す」ことの大切さを遠隔授業でいかに伝えるか、まさに教育力が問われました。当該科目では「教員との双方向のやりとり(質問への回答や課題の返却等)が十分にあった」が4.43と高評価でした。その授業手法は課題(レポート)、プレゼン、グループワーク、ディスカッションですが、これは受講生各人の身体トレーニングを動画で紹介し、皆でコメントする形式が評価されたものと思われます。受講生にとって身についたと感じられた資質と能力は、従来のスポーツ・ウェルネス実技のそれとは少し異なり、プレゼンテーション能力(42.9%)を筆頭に、コミュニケーション能力(28.6%)、構想力(28.6%)でした。わずか1例ではありますが、Withコロナの体育について教員と学生がともに考える資料となれば幸いです。

全学共通教育科目は、基本的な学問を体系的に学べるよう、また今日的な諸問題に学生みずから取り組む助けとなるよう多岐にわたって構成されています。その目標を端的に述べれば教養、知力、スキルをつけること、そして学び続けるために必要な気づきを得ることでしょう。このアンケートをもとに、今後も学生の皆さんの興味・関心を引き起こす良質の授業を提供すべく努める所存です。